

東北PPP推進連絡協「新春特別講演会」

官民連携で魅力あるまちづくりを

整備局、農政局、通産局 東北3局長らが講演

東北専門新聞連盟とどうほくPPP・PFI協会が構成する東北PPP推進連絡協議会(風見正三会長)は18日、仙台市のホテルメルパルク仙台で「新時代の東北圏の未来像と圏土づくりの方向性を語る」をテーマに、新たなまちづくりと官民連携のあり方を探り、第12回新春講演会を開いた。東北経済連合会が共催し、東北各地の産学官関係者300人が参加した。東北地方整備局、東北農政局、東北経済産業局の3局トップらが、東日本大震災から間もなく9年を迎え、震災復興事業の現状を踏まえ、東北再生を目指すための取り組みについて話題提供したほか、PPP・PFI協会創立20周年記念事業の一環で元国土交通事務次官の徳山日出男教授(徳山客員教授)の特別講演が行われた。

佐藤克英東北地方整備局長は、「復興から発展、そして強靱で活力ある東北の実現へ」をテーマに、東日本大震災からの復興と伝承、東北圏広域地方計画、台風19号による被害と対応などについて紹介。インフラと官民連携について、インフラツーリズムや河川空間と一体となった「いきわい」のあるまちづくりの取り組みについて



佐藤局長

「強靱で活力ある東北の実現へ」佐藤東北整備局長



川合局長

川合靖洋東北農政局長は、スマート農業の推進とともに、インバウンドを呼び込む農泊の推進や災害対応などを報告したうえで、農業を魅力ある成長産業としていくため、人工減少、高齢化社会に向かうなか、農林水産物・食品の輸出入の強化の推進を指摘した。

「魅力ある成長産業へ輸出力を強化」川合東北農政局長

林水産物・食品の輸出入の強化の推進を指摘した。

相楽希美東北経済産業局長は、全国の平均以上に東北の人口減少が進むなか、「地域創生で東北は稼ぐ力が必要」と強調。まちづくりの中核となる地方商業施設や福島復興の福島イノベーション・コースト構想など地方創生推進に向けた取り組みに期待を寄せた。

「地域創生で東北は稼ぐ力を」相楽東北経産局長

東日本大震災時に東北整備局長として復旧・復興をけん引してきた徳



相楽局長



徳山客員教授

「教訓が、いのちを救う」を伝承徳山客員教授

山氏は「PPPによる「復興」に伝承——震災から9年目の課題」をテーマに特別講演。復興道路・復興支援道路を10年間で供用させるため、用地取得や地元との合意形成など川上部分に民間が初めて入った事業促進PPP事業の取り組みを解説したうえで、「開通した道路をどう活用し、地域の魅力を創り出すことが必要」と指摘した。また、東日本大震災の経験を教訓を継承して発信する「3・11伝承ロード」の取り組みを紹介しながら、「災害の悲惨さだけでなく、それを乗り越える智慧を伝えるなければならない」と訴え、東北に与えられたミッションは「教訓が、いのちを救う」という教えを伝承させることと強調した。